

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

冬紅葉影を尽くして昏れにけり

児玉 典子

千切折れしまま降り積もる杉枯れ葉

泊 康

流鏑馬を終えし宮居の冬木立

宮路 生大子

大陽俳句会

新米のふはりと湯気のやはらかき

鍋山 美智子

竹林の中の小道や冬日和

逆瀬川 節子

凍星や戦火に惑ふ子の瞳

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

願はくばピンピンコロリと語りしに

十年病みて君は逝きたり

宝蔵 弘二

財部短歌会

牛飼いを止めたる農家の田んぼには

稲刈り後にわらのみ残る

児玉 次雄

大陽短歌会

朝焼けに染まる川面にそれぞれの

水脈くきやかに鴨ら遊べる

広川 ミドリ

澄み渡たる朝日を受けて初詣

家内安全のお札購う

安藤 フヂ子

真夜中を三匹並び狸去る

センサーライトに左右確かめ

竹内 娃子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

をさなき日祖父に呼ばれて正座する
笑みつつ吾の手に三時のおやつ

杉村 リカ

収穫のおはりし里に冬のかげ
雲のすきまに夕陽は輝りぬ

井上 澄子

寒み晩な 丹前を着込ん

達磨なつ

胡摩ヶ野 べぶまつ

寒みかろち 熱熱た料理を

ご馳走なつ

浜田 一好

寒み晩な 湯湯婆を抱つ

良眠にっ

浜田 一好

寒み日ねち 言ながいアイス

喰かたじゃつ

桐野 奈世